

# 中予地方局産業振興課『普及だより』

令和3年2月発行

地域農業育成室・産地戦略推進室

	〒790-8502	松山市北持田町132番地	tel (089) 909-8762
伊予農業指導班	〒799-3122	伊予市市場127番地1	tel (089) 982-0477
久万高原農業指導班	〒791-1202	上浮穴郡久万高原町入野263番地	tel (0892) 21-0314



## 豪雨災害からの復興と果樹産地強化を目指して

平成30年7月豪雨で被災した柑橘園地について、中予地方局では、松山市及びJAえひめ中央と連携し、スピード感を持って改良復旧工事の早期完了と営農再開に向けて取り組み、高浜地区では、令和2年6月末に県内初となる改良復旧工事が完了したことから、苗木の早期成園化に取り組むなど、被災前より数段パワーアップした産地づくりを進めています。

同地区のモデル園地では、マルドリ栽培（防草シート＋点滴かん水＋液肥）を導入したことにより、苗木の樹冠拡大率が慣行区の1.4倍となり、他の被災園地の支援活動の一助となることを期待しています。

また、中予の主力品種である伊予柑の被害大きく、立て直しが求められていることから、当課では、令和元年度から3年間、伊予柑のモデル園地で樹形改造、園内道設置、緩効性肥料の利用、収穫・選果方法の改善、ドローン防除を組み合わせた超省力化技術実証に取り組んでいます。傾斜地におけるドローン防除実証では、防除時間が手散布の90%以上の削減となるなど、栽培管理をこれまで以上に省力できれば、余剰な時間を面積拡大や他の品種導入に充てることができま

す。当局では、これまで培った経験を生かし、次代につながる果樹生産基盤を着実に推進するため、今後、被災園地の松山市由良地区を含む6地区で、樹園地の再編整備が計画されており、局・松山市・JAの基盤整備部門と営農支援部門が横串で連携し、柑橘園地再編整備から担い手への農地集積・高収益営農まで包括的に支援する「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム」を県内で初めて構築し、柑橘産地の復興と儲かる未来型農業の実現に一体的に取り組んでいます。



【ドローン防除実証（6～9月に4回）】毎回約20人が見学。



【高浜復旧モデル地区での早期成園化実証】

夏の高温乾燥期も少量多灌水により苗木の生育は順調（左）。ワーキングチームで現地視察し、技術情報共有と連携強化を図る（右）。

## 高品質枝物産地の育成を目指して

ユーカリは、露地栽培が可能で軽量の品目であり、市場からも安定的な需要があることから、現在管内では、生産者 124 戸、栽培面積 1,256 a となっています。

しかし近年、春季に原因不明の株枯れ症状が発生し、生産量や品質が低下していることが問題となっています。

そこで、地域農業育成室や J A、市、研究機関が連携しプロジェクトチームを設置し、調査ほ場での発生株での病原菌の鑑定、栽培管理や同病気の発生状況に関するアンケート調査を行い、問題解決にあたりました。

その結果、病原菌は特定できなかったものの排水の悪いほ場での発生が多いことから、ほ場での排水不良による根腐れが主な原因と考えられました。また、アンケートでは、約 4 割の農家がユーカリを増産したい意向であることも分かりました。

このため、同チームでは、排水対策の試験ほ場を管内に数カ所設置し、ユーカリの生育や株枯れの発生について調査するとともに、栽培面積拡大に向け優良苗木の安定供給を図るため、研究機関と検討しています。



試験ほ場の設置



排水対策試験ほ場の設置

## 「甘平」の高品質安定生産を目指して

### — 隔年結果の改善と裂果対策の推進 —

産地戦略推進室は、県育成品種「甘平」の連年安定生産に向け、問題となっている隔年結果の是正や裂果の防止を図るため、管内のモデル園地で有望技術の実証や調査を行っています。

これまでの調査で、隔年結果については、主要な枝ごとに毎年果実を交互に着果させる「大枝別交互結実法」により、通常の栽培に比べて毎年安定した着果量が確保されています。また、裂果の少ない園地では、多い園地に比べて土壌の深くまで根が伸長しており、土壌の乾湿差を小さくする灌水管理が徹底していること、根の浅い園地でも多頻度灌水によって裂果率を低く抑えている事例も確認できたことから、引き続き調査を実施して高品質安定生産に繋がります。



講習会での栽培指導



大枝別交互結実法



裂果が少ない園地の根の分布

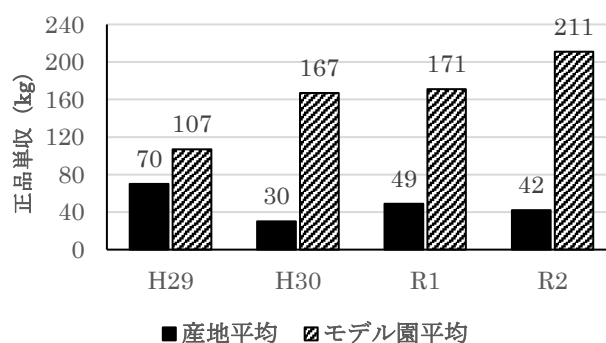
## “愛あるブランド” 中山栗の産地を元気に！！

伊予農業指導班では、県の“愛あるブランド”「中山栗」産地の再興を目指し、伊予市中山町を中心に、①低樹高化剪定、②園地の品種構成に応じた防除時期の見直し、③肥効調整型肥料による施肥への切り替えにより、高品質・高収量化及び省力化技術を推進しています。

H30 から技術実証を行ってきたモデル園（12 園地）では、徐々に収量や品質が向上しており、R 2 は目標としていた正品平均単収 200 kg を超えることができ、これらの技術を生産者へ普及し、中山栗の産地力向上を目指しています。



低樹高化 (3.5m 以内) が進んだ園地



産地とモデル園の正品単収比較

## 細霧冷房でトマトの夏季高温障害回避

久万高原町の夏秋トマト栽培では、夏季の高温により生理障害果（裂果など）の発生が多く、収量・品質低下の大きな要因となっています。そこで、細霧冷房によりハウス内の温度を低下させ、高温障害回避による収量・品質向上について実証しました。

細霧冷房の導入により、慣行栽培に比べハウス内の日中温度が約 5℃ 低く、湿度は約 10% 高く推移し、可販量、秀優品率の向上、規格外品率の低下など、生産性や品質が向上しました（表 1）。

また、裂果数の減少や裂果の程度も軽くなるなど、高温障害回避技術として効果が高い結果となりました（表 2）。細霧冷房は農薬や液肥散布に活用でき、農薬散布作業等の省力化が図れるほか、夏季のハウス内作業環境の改善につながる技術として生産者への導入が進んでいます。

細霧冷房：ハウス内に細かな霧を一定の時間間隔で噴霧し、気化熱でハウス内温度を低下させる技術

表 1 収量・品質（10a 当たり）

試験区	総量 (kg)	可販量 (kg)	秀優品率 (%)	外品率 (%)	平均花房数 (段)
細霧冷房区	14,148	11,595	71.8	18.0	15.2
慣行区	14,053	8,972	57.1	28.3	15.2

表 2 裂果の発生程度

	裂果数／収穫果数 (%)	可販裂果数／裂果数 (%)
細霧冷房区	10.3	71.6
慣行区	22.2	57.3

## スクミリンゴガイ対策に取り組みます！

伊予管内では、田植え直後に水稻を食害するスクミリンゴガイが急増しており、それに伴う補植の手間や農薬代の増加により、水稻経営を圧迫しています。そこで11月20日、スクミリンゴガイ研究の第一人者である国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の松倉敬一郎氏を招いて、集落営農組織等を対象に勉強会を開催しました。

令和3年度からは、実証ほ場を設置し、入水期における侵入防止網の設置やほ場の均平化、浅い耕起などの技術と農薬散布を組み合わせ、二毛作の盛んな管内農業体系に対応した防除対策を検討します。



勉強会の様子

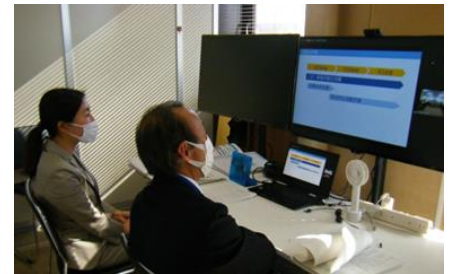


食害された水田（松前町）

## トマト産地の復活を目指した取組を全国で発表

久万高原農業指導班は、「第8回農業改良普及活動高度化全国研究大会」において、県代表として「地域の力を結集してトマト産地の復活を目指す～新規栽培者などの声を活かした多角的な普及活動～」と題した普及活動の取組を発表しました。

当班では、停滞傾向に陥ったトマト産地のV字回復を実現するために、人材育成と技術指導が有機的に機能する指導体制を組み、新規就農者の確保・育成と生産性の向上に取り組んでおり、その活動が高く評価され、「全国農業改良普及支援協会会長賞」を受賞しました。



リモートによる発表

今後も、高品質で安定した出荷によりトマトブランドの維持を図るとともに、新たな技術課題に対しても果敢に取り組み「10億円トマト産地の復活！」を目指します。



町営農支援センター等を核にしたトマト産地復活に向けた取組概要

# 農業女子会の活動紹介！

## 【松山地区の活動にあなたも参加しませんか？】

松山地域では、平成30年度から、技術習得や女性農業者同士の情報交換を目指す新たな「農業女子会」を3地区（興居島、中島、東温）で結成し、経営管理能力に優れた地域の女性リーダーを育成しています。基礎的な栽培技術講習会や6次産業化研修等を計27回開催し、延べ145人が熱心に受講しました。今後も農業女子会の活動支援と新たな組織の結成を目指し、地域農業を担う女性の技術と経営力の向上、女性就農者の確保を図ります。



かんきつの摘果方法を学ぶ



アシストスーツの効果を体感



機械のメンテナンス方法を習得

## 【伊予地区に一次産業女子のネットワーク「葉れるや」結成】

令和元年9月に伊予管内の若手農業女性7人で結成された“葉れるや”は、晴れた空の下ですくすくと伸びる葉っぱのように「メンバーが手と手をつなぎ、未来に向かって成長していく」姿をイメージして命名されました。

今年度は、新しく2人が加わり、共通ロゴマークの作成や他地区女性組織との交流のほか、携帯アプリ「LINE」を使って情報交換を行っています。



葉れるやメンバー



共通ロゴ作成研修会の様子



他地区との交流会

## 【久万高原でトマトを作いませんか！！】

久万高原町の「さくらひめ」メンバー3人は、全員がIターン就農でトマト栽培に取り組んでいます。同町への女性の就農者を呼びかけるため、7月にオンライン就農相談会に参加し、町の研修制度や農地、家の探し方をアドバイスしました。また12月のオンライン農業体験ツアーでは、地域の風景やトマト栽培について紹介し、久万高原町の魅力を発信しました。



オンライン就農相談



農業体験ツアーではドローン撮影による地域の風景も紹介



農業女子の活動に興味のある方はお気軽にお問い合わせください♪

☞ 県Webサイト「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」も要チェック！  
<https://ehime-marukajiri.jp/sakurahime/index.html>

## 次代を担う新規就農者を応援します！

### ☆同僚ふたりで法人を設立：(株) 苺遊園 (松山市)



向井佑介さん



若宮孝允さん



2人で相談できることが最大の強み

経営概要	高設イチゴ 20a、秋冬キャベツ等 28a
就農形態	新規参入 平成 30 年 1 月法人設立 同年 4 月就農
これからの夢	「大好きだった自然と関わる仕事を」と就農を決意。就農研修中に会った 2 人で (株) 苺遊園を設立。「楽しくやりたい」、「他人がやらないようなことに挑戦したい」という思いを胸に、高設いちご栽培を柱とした法人経営を行っている。 会社設立当初は苦勞の連続だったが、少しずつ自分たちのスタイルが出来上がってきた。安定した経営を目指し、こだわりの「美味しいいちご」を作り続けたい。

### ☆農業法人設立で経営の安定を図る：(株) ゆめゆめ農研 (松前町)



渡部貴信さん



栽培管理の様子

経営概要	施設きゅうり 20a、その他野菜
就農形態	新規参入 平成 29 年 6 月就農 令和元年 9 月法人設立
これからの夢	会社退職後愛媛県農林水産研究所で施設野菜を中心に研修し、平成 29 年 6 月に就農。目標であった経営の法人化を就農 3 年目で「株式会社ゆめゆめ農研」を設立し実現。現在は経営の安定を目指し生産量拡大や販売方法の開拓に取り組んでいる。将来は、経営の 6 次産業化に取り組むことと、地域農業の担い手として地域に貢献できる活動を行いたい。

### ☆若い力で地域を元気に：西山 将彰さん (久万高原町)



西山 将彰さん



稲刈りのスピードがとても速い！

経営概要	水稻 500 a (作業受託含む)、ピーマン 10 a
就農形態	Uターン 平成 27 年 4 月就農 (祖父の経営を継承)
これからの夢	水稻とピーマンを栽培している。 水稻は J A 出荷のほか、個人販売や飲食店と取引をしている。久万高原の清らかな水と自然で育った米は香りや味がよく人気です。暑い夏場の水管理や畔の草刈りが大変ですが、おいしいお米を待っていてくれる人のために頑張っている。 いずれは法人化して地域の農業を元気にしたいとの夢を抱いている。

## 久万高原町で2組織が知事表彰受賞

### 【優良農山漁村生活研究組織知事表彰】～しだれ桜グループ～

久万高原町父二峰地区で生活研究活動に取り組んできた「しだれ桜」グループ（会長：佐々木留美 会員3人）は、愛媛県優良農山漁村生活研究組織知事表彰を受賞しました。

同グループは、地域の農産物などを活用した漬物や菓子類等の加工販売に取り組むほか、10年以上にわたり地元小学校児童を対象に、学校ほ場を活用した水稻や野菜栽培の支援や郷土料理教室の開催、また、幼稚園児保護者を対象に、郷土料理の伝承や子育て世代への助言に取り組んできたことなどが高く評価されました。



表彰状授与式にて（佐々木会長）



幼稚園児保護者への雑穀料理の伝承

### 【優良農業実践集団知事表彰】～久万高原町青年農業者連絡協議会～

久万高原町の若手農業者で組織する「久万高原町青年農業者協議会（会長：森 優樹、会員32人）」は、愛媛県優良農業実践集団知事表彰を受賞しました。

“天空ファーマーズ”の愛称で活動し、久万高原町の農業や青年農業者のファンを増やすため、会員らの作業風景や久万高原の自然を収めたフォトブックの作成・配布を行ったほか、道の駅で写真展の開催やイベントで自ら生産・商品化したトマトジュースの試飲を実施し、味のPRにも努めました。また、新た取組みとして、県結婚支援センターと連携した婚活イベントを実施するなど幅広い地域活性化活動が高く評価されました。



表彰状授与式にて（森会長）



林業まつりでの来場者との交流

## 久万高原町青年農業者連絡協議会の活動を紹介します！

### 【久万高原町青年農業者連絡協議会の紹介】

- ・会長：森 優樹、会員：32人（うち女性5人）、新規参加者が多いのが特徴。
- ・「天空ファーマーズ」の愛称で活動しており、半数以上の会員が町特産のトマトを栽培しているほか、水稻やピーマン、りんごも栽培している。

### ～みかん収穫支援で青年農業者間交流～

コロナ禍の影響で南予地域のみかん収穫時の労働力が不足していることから、県青年農業者連絡協議会の要請を受け11月17日、八幡浜地区青年農業者のみかん園地で収穫を支援しました。

当日は、13人が参加し、3班に分かれて互いの地域や栽培作物等について情報交換をしながらみかんを収穫しました。

受入れ側の青年農業者からは、「普段から農作業をしているので手際もよく、とても助かった」、ボランティアに参加した青年農業者からは「初めてみかん収穫をし、良い経験になった」との声が聞かれ、青年農業者の絆が深まりました。



受入れ式にて



共に作業する青年農業者



八幡浜地区の青年農業者と

### ～医療従事者を応援！トマトジュースを贈呈～

「新型コロナウイルスの医療機関として最前線で頑張っている医療従事者に何か支援できないか」と同協議会が、久万高原町や久万高原農業指導班と相談し、会員が栽培したトマトのジュース300本を12月24日に県立中央病院へ贈呈しました。

贈呈式では、同協議会長が「自分たちの想いを込めたトマトジュースを飲んで、ホッと息抜きしてほしい」と述べ、菅院長からは「栄養満点のトマトジュースは職員も喜ぶ」と感謝の言葉が述べられました。



会員がラベルを貼りました



贈呈式で菅院長と



皆の想いが詰まったトマトジュース